

町報ひの

日野町発足
二つの市街地のあるかわった町
「日野郡」の中心
町を形つくる



写真——塔峰公園から、平和記念公園を過ぎて根雨市街地を見る。電報電話局、公衆電話、町はすれに保健所、高校が見えている。



写真——塔峰公園から、平和記念公園を過ぎて根雨市街地を見る。電報電話局、公衆電話、町はすれに保健所、高校が見えている。

新緑ある五月一日、新日野町は発足しました。新日野町は、面積二二・二五平方キロメートル、人口は二万四千四百六十六人（昭和四十四年国勢調査）で、根雨市街地と黒坂市街地の二つの市街地と、その間に広がる農村地帯とからなっています。町は、根雨市街地の中心にあり、黒坂市街地の中心にあり、その間に広がる農村地帯とからなっています。町は、根雨市街地の中心にあり、黒坂市街地の中心にあり、その間に広がる農村地帯とからなっています。

史編さんだより 『「町報ひの」創刊号にみる 日野町の誕生』

今年5月1日、日本の元号は「平成」から「令和」へと変わりました。その記念すべき日のちょうど60年前、昭和34年5月1日に根雨町と黒坂町が合併し、「日野町」が誕生しました。昭和34年5月15日に発行された「町報ひの創刊号」から、そのときの様子を紹介します。

日野町の発足

まず新町長の就任にあたるまで、町長職務執行者として稲田利正旧黒坂町長が就任することが決定されました。これは、旧根雨・黒坂町長の協議によるものです。

開庁式は、5月1日、午後0時30分、根雨公会堂を会場に全職員が集まって行われました。稲田町長職務執行者が日野町政のはじめを告げ、その後、それぞれ職務辞令の交付がありました。新生「日野町」は、役場本庁舎を旧根雨町役場に、支所を旧黒坂町役場に置き、職員数66人でのスタート

2つの市街地をもつ かわった町

町報ひの創刊号では、日野町の誕生について、次のように紹介しています。

「新緑がある5月1日、新日野町は発足しました。新しい町は、東西22km、南北22.25km、面積132.87km²、人口は9124人（根雨5806人、黒坂3318人）」

人」となり、黒坂、根雨と二つの市街地をもつ町は珍しく、また官公署、団体など出先機関も集まり、名実ともに、日野郡の中心地ができました。

また、新町名を「日野町」に決定した理由を見ると、「当地方は、山高く、谷深く、スギ、ヒノキが繁り、あるときの烈風によって、出火し焼野となったため『火野』になったという意から『日野郡』とよばれ、旧郡政当初は、当町に郡役所が置かれるなど、日野郡の政治・経済の中心地であるため、今回の合併にあたって新町名は『日野町』とすることに合併委員会で決まったわ

合併の経過

合併の経過については、次のように説明しています。

「根雨、黒坂の合併は昭和27年第一次知事勧告によって日野郡三分案である黒坂・日野・根雨・神奈川の4町村合併が勧告されました。しかし、この計画は神奈川が抜け、28年に江府町が発足し、同10月旧根雨・日野両町だけが合併しました。昨年12月新市町村建設促進法が改められ、根雨、黒坂地区は、合併しなければならぬが期限は決めないというBグループに指定をうけ、その間、事態は相当の起伏がありました。本年2月8日より、両町主脳の非公式会談から、めでたく3月17日午後9時35分、多年の懸案の町合併は調印となりました」

大字の廃止

それまで住所や土地の表示に黒坂町大字黒坂、根雨町大字津地など「大字」を使用してきましたが、町村合併を機に、告示によって1959（昭和34）年5月1日から、戸籍簿をはじめ、すべてに「大字」の使用を廃止しました。



▲根雨町と黒坂町の合併合意を伝える山陰日日新聞の記事（当時）



▲日野町の誕生を祝う人々（根雨中学校にて）

読書は人生を豊かにする一。

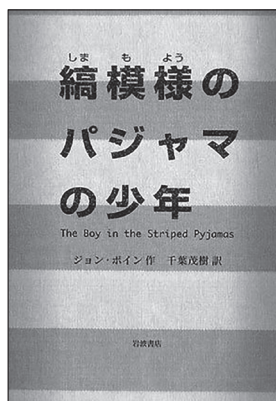
本を読む

~ Season 4 ~



どこか遠くへ出かけたくなる季節。
お気に入りの本片手に、
読書の旅、などいかがでしょうか。
この夏、町図書館があなたに届けたい
おすすめの一冊を紹介します。

問合せ / 町図書館 (電話 72-1300)



『縞模様のパジャマの少年』

ジョン・ボイン 作 / 千葉茂樹 訳 / 岩波書店

9歳の少年ブルーノは、ベルリンから「シュヨージョ」のある町へ引っ越してきた。そこで、巨大なフェンス越しに縞模様のパジャマを着た少年シュムエルと出会い仲良くなる。だが、フェンスのこちら側と向こう側に生きる二人の世界はまるで違っていた。何も知らないことほど残酷なものではなく、罪なのだと思います。ホロコーストを背景にした児童向けの寓話だが、大人にこそ読んでほしい1冊。



『日本一人が少ないところの、日本一きれいな星空』

豊 哲也 写真 / 今井出版

冬の澄んだ空に浮かぶ星もきれいだが、夏の夜空も素敵だ。星空を楽しむ条件(気象条件・自然条件・観察環境)がそろっている「鳥取県」あらため「星取県」の全市町村で撮影された、星空の写真集。星とホテルや大山などとの共演。まさに「星取県」ならではの夜の景色がたくさん収められています。ウォーキングや帰り道、ちょっと上を向いてみたくなるかも。



『漂流物』

デイヴィッド・ウィーズナー 作・絵 / BL 出版

少年が拾ったカメラの中には見たこともない海の世界が写っていた！

すごく不思議で、きれいで、ワクワクする、字がない絵本。想像力を広げながらぜひ細部まで見てほしい1冊です。



『世界は広く、美しい地球をつなぐ色〈青〉』

長倉洋海 著 / 新日本出版社

本を開くと目に飛び込んでくるのは、空や海の美しい青、蒼、碧…。本書は、写真家の長倉洋海さんが世界の「色」にスポットをあて、その国の風景や人物を撮った写真絵本シリーズの「青の巻」。写真を見ていると「色」は国や人種を超えて世界をつなぐものだと実感します。ほかに、「赤」「黄」「緑」「白」「黒」のシリーズもあります。